

ことばの力のものさし 【小1～小2段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ確認シート

【小1～小2段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ 確認シート									
		(立 学校)		児童生徒名( )					
		聞く・話す		読む		書く			
		確認項目	前期 後期	確認事項	前期 後期	確認項目	前期 後期	確認項目	前期 後期
ステップ5	5	身近な場面や関心のある話題について、日常的な語彙・表現を幅広く使って、対話をしたり自分から話したりできる。		5	低学年向けのテキスト(身近で興味のあるトピックで、短いストーリーの挿絵つきの物語文や、写真・イラストが豊富なごく短い説明文(DLA(読む)の「花いっぱいになあれ」など))を、意味のまとまりや文節で区切りながら、ややゆっくりでも安定した速さで読める。	5		5	おおむね正確な表記ができる(撥音・長音・拗音・促音やひらがな・カタカナの使い分け、既習でなじみのある漢字、一字下げ、句読点、引用符、助詞の「は」「を」「へ」など)。
	5	高頻度の接続表現(例:「～から、～で、でも」)を活用して、単文や簡単な複文を用いてほぼ誤用なく自由に、話を続けることができる。		5	低学年レベルの漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	5		5	「です・ます体」を使って文章を書き進められる。
	5	身近なことや関心のある話題について、まとまりがある話を自然な速さで聞き取ることができる。		5	文字の読み間違いに自分で気づいて訂正したり、単語や文法の意味を考えながら読むことができる(意味がわからない語の前で止まったり、戻ってきて考えてから語のまとまりで読んだり、区切り方を変える)。	5		5	自分自身にとって身近な場面や関心のある話題について、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現や接続表現(例:「～から、～で、でも」)を幅広く使って、単文や複文、簡単な複文などを用いた文章をほぼ誤用なく自由にたくさん書ける。
	5	相手や場面に応じて、「です・ます体」が使える。				5		5	書きながら、あるいは書いた後に、読み返したり支援者に読んでもらったりして自分の間違いに気づいて修正できる。
		※ 音声イメージ(例:「フーって」、「木をピーって切る」)や直接引用(例:「謝ってー!」「ごめんなさい」って言って)をよく使って話す。							
ステップ4	4	自分自身や日常的な話題(学校や家庭での過去の活動や個人の経験など)について、対話による支援を得て、よく耳にする語彙・表現を使って、単文や簡単な複文で話せる。		4	幼児向けの絵本や図鑑(身近で興味のあるトピックで、ごく短いストーリーの絵本や、文字数の少ないごく簡単な図鑑(DLA(読む)「ことりと木のは」など))を、おおむね文節や単語で区切りながらゆっくり読める。	4		4	表記の誤用はあるが、対話文の形式を用いて(例:「～したよ」)、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現を繰り返し使って、主に単文で短い文章を書ける。
	4	日常生活や学校生活で、教師や友だちに働きかけるために必要最低限のやりとりができる(お願いをする[例:「消しゴム貸して!」]、誘う[例:「あそぼ!」])。		4	長音・拗音・促音を含むひらがな・カタカナで書かれた日常的な単語がおおむね読める。	4		4	カタカナがおおむね書ける。
		※ 音声イメージ(例:「フーって、木をピーって切る」)、指さしやジェスチャー、指示語を使って、語彙・表現の不足を補って話すことがある。		4	助詞の特殊読み(「は」「へ」)がおおむねできる。				
				4	カタカナがおおむね読める。				
				4	指で文字をなぞりながら読むこともある。				
ステップ3	3	自分自身や日常的な話題について、対話による支援を得て、よく耳にする語彙・表現を使って主に単文でなんとか意味の通じる話ができる。		3	幼児向けのごく短い絵本(表現や内容の繰り返しのある絵本(「おおきなかぶ」)、DLA(読む)の「えんそくのおとしもの」など))を、かなりゆっくりと、2・3文字ずつの拾い読みや単語で区切りながら読める。	3		3	対話による支援を得て、自分に関わる高頻度の語彙・表現を繰り返し使って、単文で2、3文書ける。
		※ 音声イメージ(例:「フーって」、「木をピーって切る」)、指さしやジェスチャー、指示語を使って、語彙・表現の不足を補って話すことがある。		3	連絡帳や時刻表などで毎日使うマーク(例:宿題→し、国語→く)がわかる。	3		3	ひらがながおおむね書け、カタカナがいくつか書ける。
				3	絵や写真を手がかりに、長音・拗音・促音をのぞくひらがなで書かれた日常的な単語がおおむね読める。				
				3	カタカナがいくつか読める。				
				3	ひらがな・カタカナの区別がおおむねできる。				
ステップ2	2	自分自身のことなどについて、教師や友だちなどのゆっくりはっきりした質問に、よく耳にする語彙・表現の一部を使って答えることができる(例:「牛乳好き?」「木ある」)。		2	ひらがながいくつか読める。	2		2	対話による支援を得て、単語を並べて伝えたいことを断片的に書くことができる。
	2	よく使われる定型表現を使って、日直などの係(例:朝・昼の会の司会、授業や給食の挨拶)ができる。		2	支援者と一緒に/支援者に続いて1文字ずつの拾い読みができる。	2		2	ひらがながいくつか書ける。
	2	日常生活や学校生活で簡単な質問(例:持ち物「えんぴつ?」)ができる。		2	本を正しくもって、正しい方向にページをめくることができる。				
	2	覚えたいばかりの決まった形を使ってやりとりができる(困りごとを伝える[例:「お腹が痛い」]、お礼を言う[例:「ありがとう」]、許可を取る[例:「先生トイレ!」])。							
		※ 指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」を表現するのに「いただきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。							
ステップ1	1	自分自身(例:名前・学年・歳など)について、教師や友だちなどのゆっくりはっきりした質問に、限られた単語で答えることができる。		1	学校で目にする日本語の文字に興味を示す。			1	はじめに文字を習得している段階で、一文字一文字確認したり、支援者と話しながら書いた一文字のお手本の文字を示してもらいそれをまねて書くようにしたり、文字に対応する音を口に出して言いながらゆっくりと書くようにする。
	1	基本的な挨拶(例:「おはよう」)ができる。		1	自分の名前や学年・組など、自分に関係のある語がわかる。	1		1	数字や、自分の名前など身近な文字をひらがなまたはカタカナで書ける。
		※ 指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」を表現するのに「いただきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。		1	日本語の読み聞かせに興味を示す。			1	書くことの内容を絵にする場合もある。
	1	よく耳にする単語やその一部を口にする。						1	文字に興味を示す。
	1	質問されても答えずに、沈黙する場合がある。							

出典:「ことばの発達と習得のものさし ぱっとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)([https://www.mext.go.jp/content/20250620\\_mxt\\_kyokoku-000042836\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250620_mxt_kyokoku-000042836_01.pdf))を加工して作成

ことばの力のものさし 【小3～小4段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ確認シート

【小3～小4段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ 確認シート									
		( 立 学校 )			児童生徒名( )				
		聞く・話す		読む		書く			
		確認項目	前期/後期	確認事項	前期/後期	確認項目	前期/後期	確認項目	前期/後期
ステップ6	6	様々な接続表現や指示語などを用いて、まとまり(結束性)がある話ができる。		6 中学年向けのテキスト(やや長めで立てのある、少しの挿絵や振り仮名つきの物語文や文章構成がはっきりした写真・イラスト・図表つきの社会・理科的内容の説明文(DLA(読む)の「見がら」など)を、 <b>おおむね文や意味のまとまりで区切って流暢に読める。</b>		6 さまざまな接続表現、指示語などを使って、ある程度文や段落のまとまり(結束性)がある文章が書ける。			
	6	教科学習内容の基本的な概念の話(中学年レベル)を既習の基本的な概念・表現を使って話せる。		6 中学年レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。		6 口語的な表現(例:ちよっと、すごい)が読めることもあるが、中学年レベルのテキストで用いられる概念語彙や接続表現・表現、連体形修飾語(例:小説が好きな人、食べることがない料理)や書きことばらしい文体(例:行っってー行き、見ないでー見す、)などを使いながら文章が書ける。			
	6	このような話を自然な速さで聞き取ることができる。		6 熟読ができる。		6 「だ体・である体」を使って文章が書ける。			
ステップ5	5	身近な場面や関心のある話題について、日常的な語彙・表現を幅広く使って、対話をしたり自分から話したりできる。		5 低学年向けのテキスト(身近で興味のあるトピックで、短いストーリーの挿絵つきの物語文や、写真・イラストが豊富なごく短い説明文(DLA(読む)の「花いっぱいになあれ」など)を、 <b>意味のまとまりや文節で区切りながら、ややゆっくりでも安定した速さで読める。</b>		5 おおむね正確な表記ができる(発音・長さ・地音・促音やひらがな・カタカナの使い分け、既習でなじみのある漢字、一字下げ、句読点、引用符、助詞の「は」「を」「へ」など)。			
	5	高頻度の接続表現(例:～から、～で、～でも)を活用して、短文や簡単な構文を用いてほぼ流暢なく自由な、話を続けることができる。		5 低学年レベルの漢字・語彙・表現がおおむねわかる。		5 「です・ます体」を使って文章を書き進められる。			
	5	身近なことや関心のある話題について、まとまりがある話を自然な速さで聞き取ることができる。		5 文字の読み間違いに自分で気づいて訂正したり、単語や文法の意味を考えながら読むことができる(意味がわからない語の前で止まったり、戻ってきて考えてから語のまとまりで読んだり、区切り方を考える)。		5 自分自身にとって身近な場面や関心のある話題について、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現や接続表現(例:～から、～で、～でも)を幅広く使って、短文や短文、簡単な構文などを用いた文章をほぼ流暢なく自由にかくことができる。			
	5	相手や場面に応じて、「です・ます体」が使える。				5 書きながら、あるいは書いた後に、読み返して自分の間違いに気づいて修正できる。			
		※日常的な語彙・表現を使うなどして、概念語彙・表現を補って話すが(例:「地球が汚染される」を表現するのに「地球が汚れる」)。							
ステップ4	4	身近な場面や関心のある話題(学校や家庭での過去の活動や個人の経験など)について、日常でよく耳にする語彙・表現を使って、短文や簡単な構文で話せる。		4 低学年向けのテキスト(身近で興味のあるトピックで、短いストーリーの挿絵つきの物語文や、写真・イラストが豊富なごく短い説明文(DLA(読む)の「花いっぱいになあれ」など)を、 <b>おおむね文節や単語で区切りながらゆっくり読める。</b>		4 表記や文法には誤用があるが、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現を繰り返し使って、短文、簡単な構文をききつつ主に短文で短い文章が書ける。			
	4	場面に応じて、必要な情報をかきやりとりができる(時間や場所を確認して約束する、理由を伝えて謝るなど)。		4 低学年レベルの漢字がいくつか読める。					
		※ 音声イメージ(例:「フーって、木をピーって切る」)、指さしやジェスチャー、指示語を使って、語彙・表現の不足を補って話すが(例:「地球が汚染される」を表現するのに「地球が汚れる」)。		4 指で文字をなぞりながら読むこともある。					
ステップ3	3	自分自身や日常的な話題について、対話による支援を得て、よく耳にする語彙・表現を使って主に短文でなんとか意味の通じる話ができる。		3 幼児向けの絵本や図鑑(身近で興味のあるトピックで、ごく短いストーリーの絵本や、文字数の少ないごく簡単な図鑑(DLA(読む)の「ことりと木のは」など)を、 <b>かななりゆっくりと、おおむね文節や単語で区切りながら読める。</b>		3 対話による支援を得て、自分に関わる高頻度の語彙・表現を繰り返し使いつつ、短文を延々と短い文章が書ける。			
	3	日常生活や学校生活で、教師や友だちに働きかけるために必要最低限のやりとりができる(お断りをする[例:「消しゴム貸して」]、許可[例:「あてば」]、)。		3 長音・短音・促音を含むひらがな・カタカナで書かれた日常的な単語がおおむね読める。		3 ひらがな・カタカナをおおむね区別しながら書くことができる。			
		※ 音声イメージ(例:「フーって」「木をピーって切る」)、指さしやジェスチャー、指示語を使って、語彙・表現の不足を補って話すが(例:「地球が汚染される」を表現するのに「地球が汚れる」)。		3 助詞の特殊読み(「は」「へ」)がおおむね読める。					
				3 カタカナがおおむね読める。					
				3 指で文字をなぞりながら読む。					
ステップ2	2	自分自身のことなどについて、教師や友だちなどのゆっくりはっきりとした質問に、よく耳にする語彙・表現の一部を使って答えることができる(例:「牛乳好き」「本ある」)。		2 幼児向けのごく短い絵本(表現や内容の繰り返しのある絵本(「おききかな」)、DLA(読む)の「えんそくのおもしろい」など)を、 <b>2・3文字ずつの絵の読みや単語で区切りながらなんとか読める。</b>		2 対話による支援を得て、単語を並べて伝えたいことを断片的に書くことができる。			
	2	よく使われる定型表現を使って、日直などの係(例:朝・帰りの会の司会、授業や給食の挨拶)ができる。		2 連絡帳や時間割などで毎日使うマーク(例:宿題一し、国語一こく/国)がわかる。		2 ひらがながおおむね書け、カタカナがいくつか書ける。			
	2	日常生活や学校生活で簡単な質問(例:持ち物「えんぴつ?」)ができる。		2 絵や写真を手がかりに、長音・短音・促音のぞくひらがなで書かれた日常的な単語がおおむね読める。					
	2	意えたり決まったりした形を使ってやりとりができる(困りごとを伝える[例:「お腹が痛い」]、お礼を言う[例:「ありがとう」]、許可を取る[例:「先生トイレ」]、)。		2 カタカナがいくつか読める。					
		※指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」を表現するのに「いただきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。		2 ひらがな・カタカナの区別がおおむね読める。					
				2 ひらがながおおむね読める。					
ステップ1	1	自分自身(例:名前・学年・歳など)について、教師や友だちなどのゆっくりはっきりとした質問に、限られた単語で答えることができる。		1 学校で目にする日本語の文字に興味を示す。		1 ひらがな・カタカナをおおむね区別して確認しながら知っている単語を書くことができる。			
	1	基本的な挨拶(例:「おはよう」)ができる。		1 自分の名前や学年・歳など自分に関係のある語がおおむねわかる。		1 数字や、自分の名前など身近な文字をひらがなまたはカタカナで書ける。			
		※指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」を表現するのに「いただきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。		1 支援者と一緒に/支援者に続いて、1文字ずつの絵の読みができる。		1 書くことの内容を絵にする場合もある。			
	1	よく耳にする単語やその一部を口にする。		1 ひらがながいくつか読める。		1 文字に興味を示す。			
	1	質問されても答えずに、沈黙する場合がある。		1 日本語の読み聞かせに興味を示す。					
	1	指示の意味が理解できなくても、周りの行動を真似たり(例:「起立、礼」)、質問の意味が十分理解できなくても、反応したり(例:うなずく)教師や友だちが言ったことをおうむ返ししたりする。							

出典:「ことばの発達と習得のものさし ばつとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)([https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt\\_kyokoku-000042836\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_kyokoku-000042836_01.pdf))を加工して作成



# ことばの力のものさし 【小5～中2段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ確認シート

【小5～中2段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ 確認シート									
		( 立 学校 )		児童生徒名( )					
	聞く・話す		読む		書く				
	確認項目	前期	後期	確認事項	前期	後期	確認項目	前期	後期
ステップ1	高学年から中学レベルの既習の慣用的な表現やよく使われる語の組み合わせ(コロケーション。例: O仲が良い、X仲が悪い)といった表現(単語や句)のレパートリーが増え、これらを活用して使える。			高学年から中学生向けのテキスト(ライトノベル、情報文、子ども新聞・雑誌、子ども向けインターネット情報など(DLA(読む)の「自然を守る」など)を文や意味のまとまりで区切って、安定した速さで読解できる。			高学年から中学レベルの既習の慣用的な表現やよく使われる語の組み合わせ(コロケーション)といった表現のレパートリーが増え、これらを活用して使える。		
	相手や場面に応じておおむね適切な敬語表現が使える。			高学年から中学レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。			高学年から中学レベルのテキストで使われる概念語彙や低頻度語彙・漢語などの表現をおおむね適切に選択し、一貫して書きこばらしい文章が書ける。		
	目的(例: プレゼンテーション、フォーマルな場面など)に応じて語体(普通体、です・ます体)を選択して話せる。			※国語での読む力が高い場合、音読が流暢でなくても、このレベルのテキストを読んで理解できる。					
	教科学習内容の抽象的な概念の語(高学年・中学レベル)を既習の抽象的な概念語彙・表現を使って話せる。								
	このような話を自然な速さで聞き取ることができる。								
ステップ2	様々な接続表現や指示語などを用いて、まとまり(結束性)がある話ができる。			中学年向けのテキスト(やや長めで重立てのある、少しの挿絵や振り仮名つきの物語文や文章構成がはっきりした写真・イラスト・図表つきの社会・理科的内容の説明文(DLA(読む)の「貝がら」など)や年齢相応のトピックで、語彙・表現や文章構成が中学年レベルのテキストを、おおむね文や意味のまとまりで区切って読解できる。			さまざまな接続表現、指示語などを使って、ある程度文や段落のまとまり(結束性)がある文章が書ける。		
	教科学習内容の抽象的な概念の語(高学年・中学レベル)を既習の基本的な概念語彙・表現(中学年レベル)で代用して話せる。			中学年レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。			口語的な表現(例: ちよつと、すこし)が選べることもあるが、中学年レベルのテキストで使われる概念語彙や低頻度語彙・表現、連体修飾語(例: 小説が好きな人、食べたことがない料理)や書きこばらしい文体(例: 行って一行き、見ないで一見す。)などを使いながら文章が書ける。		
	このような話を少しゆっくりの速さで聞き取ることができる。			※国語での読む力が高い場合、音読が流暢でなくても、このレベルのテキストを読んで理解できる。			「だ体」である体「を」を使って文章が書ける。		
ステップ3	身近な場面や関心のある話題について、日常的な語彙・表現を幅広く使って、対話をしり自分から話したりできる。			日常で用いられる幅広い語彙や短文・短文で書かれた、イラストや写真つきの短いテキスト(DLA(読む)の「あつまれ、幸福」など)や年齢相応のトピックで、語彙・表現や文章構成が低学年レベルのテキストを意味のまとまりや文節で区切りながら、ややゆっくりでも安定した速さで読める。			おおむね正確な表記ができる(発音・長音・短音・促音やひらがな・カタカナの使い分け、既習でなじみのある漢字、一字下げ、句読点、引用符、助詞の「は」「を」「へ」など)。		
	高頻度の接続表現(例: ～から、～で、でも)を活用して、短文や簡単な短文を用いてほぼ活用なく自由に、話を続けることができる。			低学年レベル/日常で用いられる既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。			「です・ます体」を使って文章を書き進められる。		
	身近なことや関心のある話題について、まとまりがある話を自然な速さで聞き取ることができる。			※国語での読む力が高い場合、音読の方がよく理解できたり、音読が流暢でなくても、このレベルのテキストを読んで理解できる。			自分自身にとって身近な場面や関心のある話題について、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現や接続表現(例: ～から、～で、でも)を幅広く使って、短文や短文、簡単な短文などを用いた文章をほぼ活用なく自由にたくさん書ける。		
	相手や場面に応じて、「です・ます体」が使える。						書きながら、あるいは書いた後に、読み返して自分の間違いに気づいて修正できる。		
	※日常的な語彙・表現を使うなどして、概念語彙・表現を補って話せることがある(例: 「地球が汚染される」を表現するのに「地球がダメになる」)。						※ 国語での書く力が高い場合、文法や語彙の選択に誤用があるが、短文や短文、簡単な短文を用いた文章を自由に書ける。		
ステップ4	身近な場面や関心のある話題(学校や家庭での過去の活動や個人の経験など)について、既習の語彙・表現・文型を使って、短文や簡単な短文で話せる。			身近なトピックについて、日常で用いられる語彙や短文、基本的な短文で書かれた、イラストや写真つきの短いテキストを、おおむね文節や単語で区切りながらゆっくり読める。			表記や文法には誤用があるが、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現を繰り返し使って、短文、簡単な短文を含みつつ主に短文で短い文章が書ける。		
	場面に応じて、必要な情報を含むやりとりができる(時間や場所を確認して約束する、理由を伝えて謝るなど)。			日常で用いられる基本的な既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。			※ 国語での書く力が高い場合、文法や語彙の選択に誤用があるが、既習の語彙・表現や文型を使って、短文や短文、簡単な短文を用いた文章が書ける。		
	※ 簡単な表現、言い回し(例: 素直に謝る→素直に謝る)や母語を活用して、語彙・表現の不足を補って話せることがある。			文字の読み間違いに自分で気づいて訂正したり、単語や文法の意味を考えながら読むことができる(意味がわからない語の前で止まったり、戻ってきて考えてから語のまとまりで読んだり、区切り方を考える)。					
				指で文字をなぞりながら読むこともある。					
ステップ5	身近な場面や関心のある話題について、語彙(形容詞や動詞など、述語の活用や助詞)が揃っても、既習の基本的な語彙・表現・文型を使って、主に短文でなんとか意味の通じる話ができる。			身近なトピックについて、日常で用いられる基本的な語彙や短文で書かれた、イラストや写真を中心の短いテキスト(DLA(読む)の「ハチの語」など)を、かなりゆっくりと、おおむね文節や単語で区切りながら読める。			対話による支援を得て、自分に関わる高頻度の語彙・表現を繰り返し使い、短文を連ねて短い文章が書ける。		
	日常生活や学校生活で、教師や友だちに働きかけるために必要最低限のやりとりができる。(お願いをする(例: 「消しゴムを貸してください」)、謝う(例: 「一緒に帰ろう」)。			日常で用いられるごく基本的な既習の漢字がいくつか読める。			※ 国語での書く力が高い場合、支援なしで基本的な既習の語彙・表現や文型を使って、短文を連ねて文章が書ける。		
	※ 指さしやジェスチャー、指示語、敬語を活用して、語彙・表現の不足を補って話せることがある。			長音・短音・促音を含むひらがな・カタカナで書かれた日常的な単語がおおむね読める。					
				助詞の特殊読み(「は」「へ」)がおおむね読める。					
				指で文字をなぞりながら読む。					
ステップ6	自分自身のことなど(家族の構成、好きなもの/こと、将来の夢、自身の出身など)について、教師や友だちなどのゆっくりはっきりとした質問に、既習の語彙・句や短文、よく使われる表現を使って答えることができる。			いくつかの既習の定型表現や語句、限られた文型を用いて書かれた、イラストや写真を中心の短いテキスト(DLA(読む)の「カラダをさし」など)を、2・3文字ずつの読み込みや単語で区切りながら、なんとか読める。			モデル文を参考にして、自分自身にとって身近な話題(自分や家族の紹介、好きな物、休みの日、将来の夢など)についていくつか文が書ける。		
	日常生活や学校生活で簡単な質問(例: 移動教室「どこに行きますか?」)ができる。			長音・短音・促音のすぐひらがなで書かれた日常的な単語がおおむね読める。					
	覚えたいばかりの決まった形を使ってやりとりができる(困りごとを伝える(例: 「お腹が痛い」)、お礼を言う(例: 「ありがとう」)、許可を取る(例: 「先生トイレに行ってもいいですか」)。			カタカナがいくつか読める。					
	※ 指さしやジェスチャー、指示語(例: これ)、会話表現(例: 「朝ご飯を食べる」を表現するのに「いただきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。								
ステップ7	自分自身(例: 名義・学年・歳など)について、教師や友だちなどのゆっくりはっきりとした質問に、限られた単語で答えることができる。			自分の名前や学年・級、学校名など、自分に関係のある語がおおむねわかる。			ひらがな・カタカナをおおむね区別して確認しながら知っている単語を書くことができる。		
	基本的な挨拶(例: 「おはよう」)ができる。			連絡帳や時間割などで毎日使うマーク(例: 宿題一宿、国語一宿)がわかる。			母語の単語や表現をそのままひらがな・カタカナを使って書くこととする。(例: カントリー(country))		
	※ 指さしやジェスチャー、指示語(例: これ)、会話表現(例: 「朝ご飯を食べる」を表現するのに「いただきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。			支援者と一緒に/支援者に続いて、1文字ずつの読み込みができる。					
	周りの状況を見たり、既習の知識を使って、相手が何を言っているのか推測したりしようとする。			ひらがながおおむね読める。					
	周りの状況に合わせて行動する(例: 教科書を取り出す)。			日本語にひらがな・カタカナ・漢字の区別があることがわかる。					

出典: 「ことばの発達と習得のものさし。ばつとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)([https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt\\_kyokoku-000042836\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_kyokoku-000042836_01.pdf))を加工して作成

# ことばの力のものさし 【中3～高校段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ確認シート

【中3～高校段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ 確認シート									
		立 校 学 校		立 校 学 校		立 校 学 校		立 校 学 校	
聞く・話す		読む		書く		聞く・話す		読む	
確認項目		確認項目		確認項目		確認項目		確認項目	
前期		後期		前期		後期		前期	
ステップ8	教科書内容の抽象的な概念の話、家社会に関する話の話を(中学・高校レベル)を既習の抽象的な概念・表現を幅広く使って話せる。	8	中学生から高校生向けのテキスト(小説・文学作品、論説文、新聞・雑誌の報道文、インターネット情報などの幅広いジャンル(DLA(読む)の「水の東西」など)を文や意味のまとまりで区切って、安定した速さで読解に読める。	8	抽象的な概念・表現・文法・語彙・漢字語彙を使って中学生・高校生レベルの読解文や論説文、論評文、創作的文章などが書ける。	8	書きことばらしい表現や文法(受身表現や名詞句の活用など)、及び創造的な表現技法(比喩など)を使用して文章が書ける。	8	敬語などの相手や場に応じたことば遣いを適切に使って文章が書ける。
	このような話を自然な速さで聞き取ることができる。		中学・高校レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。						
ステップ7	高学年から中学レベルの既習の慣用的な表現やよく使われる語の組み合わせ(コロケーション、例:口がよい、×仲が悪いといった表現(単語や句)のレパートリーが増え、これらを適切に使える。	7	高学年から中学向けのテキスト(ライトノベル、情報文、子ども新聞・雑誌、子ども向けインターネット情報など(DLA(読む)の「自然を守る」など)を文や意味のまとまりで区切って、安定した速さで読解に読める。	7	高学年から中学レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	7	高学年から中学レベルの既習の慣用的な表現やよく使われる語の組み合わせ(コロケーション)といった表現のレパートリーが増え、これらを適切に使える。	7	高学年から中学レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。
	相手や場面に応じておおむね適切な敬語表現が使える。		高学年から中学レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。						
	目的(例:プレゼンテーション、フォーマルな場面など)に応じて語体(普通体、です・ます体)を選択して話せる。		※ 母語での読む力が高い場合、音読が流暢でなくても、このレベルのテキストを読んで理解できる。				※ 母語での書く力が高い場合、語用が適切でも書きことばらしい文章が書ける。		
	教科書内容の抽象的な概念の話(高学年・中学レベル)を既習の基本的な概念・表現を使って話せる。								
ステップ6	このような話を自然な速さで聞き取ることができる。	6	中学向けのテキスト(やや長めで重たいもの、少しの挿絵や図表つきなどの物語文や文章構造がはっきりした写真・イラスト・図表つきの社会・理科的内容の読解文(DLA(読む)の「良がら」など)や年齢相応のトピックで、語彙・表現や文章構造が中学レベルのテキストを、おおむね文や意味のまとまりで区切って読解に読める。	6	中学レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	6	口語的な表現(例:ちょっと、すごい)が使えることもあるが、中学レベルのテキストで用いられる概念・語彙や敬語・表現、連体修飾節(例:小話が好き、食べたことがない料理)や書きことばらしい文法(例:行っている、見ないで一見す)などを使いながら文章が書ける。	6	口語的な表現(例:ちょっと、すごい)が使えることもあるが、中学レベルのテキストで用いられる概念・語彙や敬語・表現、連体修飾節(例:小話が好き、食べたことがない料理)や書きことばらしい文法(例:行っている、見ないで一見す)などを使いながら文章が書ける。
	様々な接続表現や指示語などを用いて、まとまり(結束性)がある話ができる。		※ 母語での読む力が高い場合、音読が流暢でなくても、このレベルのテキストを読んで理解できる。				※ 母語での書く力が高い場合、語用が適切でも中学レベルの既習の漢字・語彙・表現や文法を使って、まとまりのある文章が書ける。		
	教科書内容の抽象的な概念の話(高学年・中学レベル)を既習の基本的な概念・表現(中学レベル)で代用して話せる。								
	このような話を少しゆっくりの速さで聞き取ることができる。		読解ができる。				「だれ・である体」を使って文章が書ける。		
ステップ5	身近な場面や関心のある話題について、日常的な語彙・表現を幅広く使って、対話をしたり自分から話したりできる。	5	日常で用いられる幅広い語彙や単語・短文で書かれた、イラストや写真つきの短いテキスト(DLA(読む)の「あつた、あつた」など)や、年齢相応のトピックで、語彙・表現や文章構造が中学レベルのテキストを意味のまとまりや文節で区切りながら、ややゆっくりの速さで読める。	5	低学年レベル/日常で用いられる既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	5	おおむね正確な表記ができる(綴音・長音・短音・促音やひらがな・カタカナの使い分け、読点など)のある漢字、一文字、句読点、引用符、助詞の「は」「を」「へ」など。	5	おおむね正確な表記ができる(綴音・長音・短音・促音やひらがな・カタカナの使い分け、読点など)のある漢字、一文字、句読点、引用符、助詞の「は」「を」「へ」など。
	高学年の接続表現(例:～から、～で、でも)を活用して、単文や簡単な短文を用いてほぼ流暢なく自由に、話を続けることができる。		※ 母語での読む力が高い場合、音読の方がよく理解できたり、音読が流暢でなくても、このレベルのテキストを読んで理解できる。				「です・ます体」を使って文章を書き進められる。		
	身近なことや関心のある話題について、まとまりがある話を自然な速さで聞き取ることができる。						日常的な会話で用いられる高学年の語彙・表現や接続表現(例:～から、～で、でも)を幅広く使って、単文や短文、簡単な短文などを用いた文章をほぼ流暢なく自由にたくさん書ける。		
	相手や場面に応じて、「です・ます体」が使える。						書きながら、あるいは書いた後に、読み返して自分の間違いに気づいて修正できる。		
ステップ4	※ 日常的な語彙・表現を使うなどして、概念・語彙・表現を補って話せることがある(例:「地球が汚染される」を表現するのに「地球が汚染される」)。	4	身近なトピックについて、日常で用いられる語彙や単語、基本的な短文で書かれた、イラストや写真つきの短いテキスト(DLA(読む)の「ハチの話」など)を、かなりゆっくりと、おおむね文や単語で区切りながら読める。	4	日常で用いられる基本的な既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	4	表紙や文法、語彙の選択に多くの活用があるが、学校生活や日常生活で用いられる既習の語彙・表現や文法を使って、単文や短文、簡単な短文を用いた文章が書ける。	4	※ 日本語の読む力が強い場合、表記には多くの活用があるが、口語的な文法が書ける。
	身近な場面や関心のある話題(学校や家庭での過去の活動や個人の経験など)について、既習の語彙・表現・文型を使って、単文や簡単な短文で話せる。		文字の読み間違いに自分で気づいて訂正したり、単語や文法の意味を考えながら読むことができる(意味がわからない語の前で止まったり、戻って考えてから語のまとまりで読みだし、区切り方を覚える)。						
	場面に応じて、必要な情報を含むやりとりができる(時間や場所を確認して約束する、理由を述べて謝るなど)。		指で文字をなぞりながら読むこともある。						
	※ 簡単な表現、言い回し(例:楽々を演じる一歩をやる)や母語を活用して、語彙・表現の不足を補って話せることがある。								
ステップ3	身近な場面や関心のある話題について、語用(形容詞や動詞など、述語の活用や助詞)があっても、既習の基本的な語彙・表現・文型を使って、主に単文でなんとか意味の通じる話ができる。	3	身近なトピックについて、日常で用いられる基本的な語彙や単語、基本的な短文で書かれた、イラストや写真つきの短いテキスト(DLA(読む)の「ハチの話」など)を、かなりゆっくりと、おおむね文や単語で区切りながら読める。	3	日常で用いられるごく基本的な既習の漢字がいくつか読める。	3	自分自身にとって身近な場面や関心のある話題について、学校生活や日常生活で用いられる基本的な既習の語彙・表現や文型を使って、単文や短文、簡単な短文を用いた文章が書ける。	3	自分自身にとって身近な場面や関心のある話題について、学校生活や日常生活で用いられる基本的な既習の語彙・表現や文型を使って、単文や短文、簡単な短文を用いた文章が書ける。
	日常生活や学校生活で、教師や友だちに働きかけるために必要最低限のやりとりができる。 (お願いをする(例:「消しゴムを貸してください」)、謝る(例:「一緒に帰ろう」))。		長音・短音・促音を含むひらがな・カタカナで書かれた日常的な単語がおおむね読める。						
	※ 指示しやジェスチャー、指示語、母語を活用して、語彙・表現の不足を補って話せることがある。		助詞の特殊読み(「は」「へ」)がおおむねわかる。						
			指で文字をなぞりながら読む。						
ステップ2	自分自身のことなど(家族の構成、好きなもの、こと、将来の夢、日常の出来事など)について、教師や友だちなどのゆっくりはつきりした質問に、既習の語彙・句や単語、よく使われる表現を使って答えることができる。	2	いくつかの既習の定型表現や語句、雇われた文型を用いて書かれた、イラストや写真を中心の短いテキスト(DLA(読む)の「カラスと水さし」など)を、2・3文字ずつの短い読みや単語で区切りながら、なんとか読める。	2	長音・短音・促音のそっくりな形で書かれた日常的な単語がおおむね読める。	2	モデル文を参考に、自分自身にとって身近な話題(自分や家族の紹介、好きな物、休みの日、将来の夢など)についていくつか文が書ける。	2	モデル文を参考に、自分自身にとって身近な話題(自分や家族の紹介、好きな物、休みの日、将来の夢など)についていくつか文が書ける。
	日常生活や学校生活で簡単な質問(例:移動教室どこに行きますか?)ができる。		長音・短音・促音のそっくりな形で書かれた日常的な単語がおおむね読める。						
	覚えたいばかりの決まった形を使ってやりとりができる(固いことを伝える(例:「お腹が痛い」)、おれを言う(例:「ありがとう」)、許可を返す(例:「先生トイレに行ってもいいですか」))。		カタカナがいくつか読める。						
	※ 指示しやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」を表現するのに「いただきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。								
ステップ1	自分自身(例:名前、学年、年齢など)について、教師や友だちなどのゆっくりはつきりした質問に、雇われた単語で答えることができる。	1	自分の名前や学年・組、学校名など、自分に関係のある語がおおむねわかる。	1	連絡帳や時間割などで毎日使うマーク(例:宿題一冊、国語一冊)がわかる。	1	ひらがな・カタカナをおおむね区別して確認しながら知っている単語を書くことができる。	1	ひらがな・カタカナをおおむね区別して確認しながら知っている単語を書くことができる。
	基本的な挨拶(例:おはよう)ができる。		支援者と一緒に(支援者に続いて、1文字ずつの短い読みができる)。						
	※ 指示しやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」を表現するのに「いただきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。								
	周りの状況を見たり、既習の知識を使って、相手が何を言っているのか推測しようとする。		ひらがながおおむね読める。						

出典:「ことばの発達と習得のものさし ばつとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)([https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt\\_hyokoku-000042838\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_hyokoku-000042838_01.pdf))を加工して作成



# ことばの力のものさし

## 思考・判断・表現を支える包括的なことばの力(複数言語での力)の発達ステージ確認シート 縦版

思考・判断・表現を支える包括的なことばの力(複数言語での力)の発達ステージ 確認シート													
日本語と母語のうち、より高いほうの力で、おおまかに捉える					(立 学 校 年)	児童生徒名( )							
	聞く・話す			年齢	読む			年齢	書く				
	年齢	確認事項	前期 後期		年齢	確認事項	前期 後期		年齢	確認事項	前期 後期		
ステージF 【評価・発展】期		中学から高校の教科学習内容(抽象的な概念、実社会に関わる話題など)について、多角的・批判的視点をもった議論ができる。			中学生から高校生向けの文学作品において、テキストの表現を吟味しつつ、主題を捉え、作品全体を鑑賞できる。			書く前に、構成や長さ(情報の分量)、時間配分、読み手のことや目的を考えて計画を立て、自分からアウトラインをつくることができる。					
		論理的構成を意識し、根拠に基づいた効果的なプレゼンテーションができる。			中学生から高校生向けの論説文において、構成や論理の展開に注意しつつ、テキストの根拠に基づいて要旨を的確に理解できる。			書きながら、あるいは書いた後に、目的に応じて内容がより明確・効果的に伝わるように自分から推敲することができる。					
		反論できる論理の展開を考え、説得力のある意見を述べることができる。			理解を深めるために、高度な読解ストラテジーを活用できる(ステージA～Eに加えて、多角的・批判的視点から内容を評価する、比喩表現を読み解く、書き手の表現選択に含まれた意図を読み解く、関連する他のテキストやOTで重要な情報を収集し、課題や目的に応じて比較・統合する)。			内容を効果的に伝えるために、構成や書き出し、結びを工夫し、適切な表現技法(比喩など)を選ぶことができる。					
					テキストに関連して、複数の文化(もの)の見方、価値観を含む)を比べて、多角的・批判的に考え、評価できる。			社会的・文化的な話題や教科学習で扱う話題について、目的に応じて情報を収集し、その真偽を吟味し、論理的な説明文が書ける。					
ステージE 【抽象】期		小学校高学年から中学の教科学習内容(抽象的な概念など)について、事実と意見の違いを意識しつつ、共通点や相違点を整理して議論できる。			小学校高学年から中学生向けの物語文において、テキストの表現について理解しながら、作品の主題を理解できる。			書く前に、ペアやグループでの話し合いなどを進め、図やキーワードなどを用いたアウトラインを作ったりして書く準備ができる。					
		構成を意識し、IoTなどを活用しながら聞き手にわかりやすいプレゼンテーションができる。			小学校高学年から中学生向けの説明文において、テキストの根拠に基づいて、要旨を理解できる。			書いた後に、教師やクラスメートの助言を得て、一貫性に気をつけながら推敲ができる(不要なものを削除する、順番を入れ替える、必要なものを追加するなど)。					
		場面や相手に応じて適切な言葉や表現などを選択できる。			課題や目的に応じて、IoTを活用するなど、必要な情報を収集できる。			社会的・文化的な話題や教科学習で扱う話題について、論理的で必要な情報が入った説明文がおおむね書ける。					
		論拠を挙げながらおおむね一貫性のある意見を述べることができる。			理解を深めるために、豊富な読解ストラテジーを活用できる(ステージA～Dに加えて、テキスト構造を読み取る、自分の理解度を継続的にモニターする、要約や言い換えをしながら読む、テキスト内から根拠を見つける)。			社会的・文化的な話題や教科学習で扱う話題について、根拠となる事実や具体例を挙げながら意見文がおおむね書ける。					
ステージD 【因果】期		複数の段落からなるまとまりのある話を要約して話せる。			目的に応じてレベルや内容の適切な本やテキストを自分で選ぶことができる。			自分の経験をもとに読み手に訴える創作的な作品(ショートストーリーや物語・詩など)がおおむね書ける。					
		教科学習内容の基本的な概念(小学校・中学年程度)について、因果関係をまとめて説明できる。			小学校・中学年向けの物語文・説明文において、段落の関係や内容の結びつき(因果関係、情景・心情の変化など)を理解できる。			書く前に、促されればメモをしたり、下書きを書いたりして構想を練ることができる。					
		教科学習内容の基本的な概念(小学校・中学年程度)についての説明を聞いて理解できる。			理解を深めるために、さまざまな読解ストラテジーを活用できる(ステージA～Dに加えて、一般的な読解の構造に対する知識から読み解く、テキストの中で大事な情報が何なのかを捉えながら読む、具体例を考えながら読む、タイトルや目次・表紙から内容を推測する、内容について疑問を持ちながら読む、前後の文脈や持っている知識を活用して未知の言葉の意味を推測する、わからないことを辞書やネットなどで調べる、強いほうのことばの力を活用する)。			わからない言葉や表現について、辞書などを使って自分で調べながら書くことができる。					
		集めた情報を示しながら、授業で発表できる。			テキストに関連して、複数の文化的・社会的・経済的な側面を考察することができる。			書いた後に、促されれば、読み返して文章のまとまりに気をつけながら、推敲ができる。					
ステージC 【順序】期		具体的な事例とともに理由を挙げながら、自分の意見を述べることができる。			関心のある話題について本を自分で選ぶことができる。			読者の関係や内容の結びつき(因果関係など)を意識して、テーマ作文(意見文・説明文・できごと作文など)が書ける。					
		自分に関係のあることや体験したことについて、順序にそって詳しく話せる。			小学校低学年向けの物語文において登場人物や場面を捉え、大事な内容を順序にそって最後まで理解できる。			クラス全体の話し合い(読み手に対する意図・内容・目的について)を通して書き始めることができる。					
		身近なことや経験したことに関連した学習内容を聞いて話の流れを理解し、感想とその理由が言える。			小学校低学年向けの説明文において、大事な情報を取り出すことができる。			自分の興味がある身近なトピックや経験したことについて、順序にそって詳しく書き始めることができる。					
		身近なことや経験したことに関連した学習内容についての話し合いの場で、教師や友達の話に聞いて発言できる。			理解を深めるために、いくつかの読解ストラテジーを活用できる(ステージA、Bに加えて、話の中でイメージ(絵・図・映像)化する、テキストと自分の体験を結びつける、原因・理由を考える、一部を読んで先を予測する)。			書いた後に、促されれば、読み返して文章のまとまりに気をつけながら、推敲ができる。					
ステージB 【イマココから順序】期		対話による支援を得て、身近なことや経験したことについて、順序にそっておおまかに話せる。			幼児・小学校低学年前半向けの物語文において、対話による支援を得て内容を順序にそっておおまかに理解できる。			支援者との対話をてがかりに、身近なことや経験したことについて、順にうかんだことを順序にそっておおまかに書き始めることができる。					
		身近なことや経験したことに関連した学習内容を聞いておおむね理解し、ひとこと程度に感想が言える。			理解を深めるために、限られた読解ストラテジーを活用する(ステージAに加えて、テキストを読み返す、わからないことを他の人に質問する)。			支援者との対話をてがかりに、身近なことや経験したことについて、順にうかんだことを順序にそっておおまかに書き始めることができる。					
		自分が聞きたいことを質問できる。			テキストに見られる複数の文化的・社会的・経済的なものに気がつく。			支援者との対話をてがかりに、身近なことや経験したことについて、順にうかんだことを順序にそっておおまかに書き始めることができる。					
		対話による支援を得て、身近なことや経験したことなどについて、覚えていた場面を断片的に話せる。			自分好きな本を選ぶことができる。			支援者との対話をてがかりに、身近なことや経験したことについて、順にうかんだことを順序にそっておおまかに書き始めることができる。					
ステージA 【イマココ】期		対話による支援を得て、ごく簡単な質問(例:誰が、何が/を、どんな/どうした、など)に答えられる。			幼児・小学校低学年前半向けの物語文において、対話による支援を得て大きな内容(誰が、何が/を、どんな/どうした、など)を断片的に理解できる。			支援者との対話をてがかりに、身近なことや経験したことについて、順にうかんだことを順序にそっておおまかに書き始めることができる。					
		対話による支援を得て、ごく簡単な質問(例:誰が、何が/を、どんな/どうした、など)に答えられる。			絵や写真から意味や内容を推測しようとするなど、読解ストラテジーを使い始める。			支援者との対話をてがかりに、身近なことや経験したことについて、順にうかんだことを順序にそっておおまかに書き始めることができる。					
		対話による支援を得て、ごく簡単な質問(例:誰が、何が/を、どんな/どうした、など)に答えられる。			絵や写真から意味や内容を推測しようとするなど、読解ストラテジーを使い始める。			支援者との対話をてがかりに、身近なことや経験したことについて、順にうかんだことを順序にそっておおまかに書き始めることができる。					
		対話による支援を得て、ごく簡単な質問(例:誰が、何が/を、どんな/どうした、など)に答えられる。			絵や写真から意味や内容を推測しようとするなど、読解ストラテジーを使い始める。			支援者との対話をてがかりに、身近なことや経験したことについて、順にうかんだことを順序にそっておおまかに書き始めることができる。					
ステージ	聞く・話す			前期 後期	読む			前期 後期	書く			前期 後期	
思考・判断・表現を支える包括的なことばの力(複数言語での力)の発達ステージ(日本語と母語の4技能の中で一番高いステージ)													
出典:「ことばの発達と習得のものさし ばつとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)( <a href="https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_kyokoku-000042836_01.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_kyokoku-000042836_01.pdf</a> )を加工して作成													

思考・判断・表現を支える包括的なことばの力(複数言語での力)の発達ステージ確認シート 横版

19